



深小だより



学校だより 5月号
令和8年5月1日

学校教育目標（合い言葉）『たから』 いっぱい 深良小！



「役に立っている」実感が心を強くする

深良小学校長

本校では、学校教育目標（合い言葉）を実現するための学校経営目標を「自己有用感・自尊感情を高める」と設定しています。

子供たちが健やかに成長していくために、大切にしていることがあります。それは、「自分は誰かの役に立っている」「自分には価値がある」と感じられる自己有用感や自尊感情です。これらは、学力や運動能力と同じように、いやそれ以上に、子供たちの人生を支える土台となるものです。

このことを、アニメ『鬼滅の刃』を例に考えてみたいと思います。主人公の竈門炭治郎（かまど・たんじろう）は、もともと特別に強い存在ではありません。むしろ、優しさや真面目さ、あきらめない心といった、人としての誠実さを大切にしながら成長していきます。炭治郎は仲間と協力し、支え合いながら困難を乗り越えていきます。

『鬼滅の刃』に登場する柱や仲間たちも、それぞれに得意なことや弱さを抱えています。臆病な自分を責めていた善逸（ぜんいつ）、力ではかなわなくても役割を果たそうとする伊之助（いのすけ）。それぞれが「自分にできることがある」「自分の存在が仲間の助けになる」と実感したとき、本当の強さを発揮していきます。そこには、「完璧であること」よりも、「自分のよさを生かして誰かのために行動すること」の大切さが描かれています。

学校生活も同じです。目に見える成果だけが、その子の価値を決めるわけではありません。友達の悩みに耳を傾けること。係活動を責任をもってやり遂げること。苦手でも最後まで取り組むこと。そうした一つ一つの行動が、「自分は役に立っている」という実感につながっていきます。

自己有用感や自尊感情は、叱責や比較によって育つものではありません。その子の努力や成長を認め、声を掛け、安心できる居場所をつくることで育まれます。「あなたがいて助かった」「その頑張りを見ていたよ」という言葉は、その子の心に確かな自信の芽を育てます。

また、炭治郎が何度も倒れながら立ち上がる姿は、「失敗してもやり直していい」「弱さがあっても前に進める」という、大切なメッセージを私たちに伝えてくれます。失敗やつまずきも、その子が成長している証として受け止めていきたいものです。

炭治郎が仲間を信じ、自分の役割を果たし続けたように、子供たち一人一人が「ここにいていい」「自分には価値がある」と感じられる学校でありたいと願っています。これからも、教職員一同、子供たちのよさを見つけ、認め、伸ばす学校づくりに努めていきます。



★1年生を迎える会★

4月24日（金）、児童会が中心となり1年生を迎える会を行いました。全校児童みんなで○×クイズやじゃんけん列車を行い、笑顔あふれる楽しい時間を過ごしました。また、各学年、心のこもった歓迎の言葉を1年生に伝え、体育館が温かい雰囲気になりました。1年生の言葉も、とっても立派でした。これからも、みんなで仲良くしていきましょう！



交通安全教室・自転車教室

4月22日（水）に、1年生は交通安全教室を、4年生は1回目の自転車教室を行いました。1年生は、左右をよく見て安全に歩くことができていました。駐車場に出入りする車にも注意していました。4年生は、自転車の点検のしかたや安全な乗り方を教わりました。約束を守り、慎重に自転車に乗っていました。4年生は、28日（火）にも2回目の自転車教室を行いました。大切なことをたくさん教わりました。



深良用水まつり

26日（日）に「深良用水まつり」が行われ、深良小の子どもたち数十名が仮装行列の一員として参加しました。

良い天気の中、地域の方々の温かい励ましを受け、ゴールの深良小まで歩きました。



○休日や放課後の過ごし方について

明日からゴールデンウィークが始まります。交通ルールを守り、安全に過ごせることを願っています。また、日頃から休日や放課後の過ごし方について、お子様とご家庭で話し合っているただけだとありがたいです。保護者の方が不在時のことや、放課後や休日の遊び方を改めてご確認いただき、楽しい連休となるよう、ご配慮ください。よろしくお願いします。